



かわごえ



民児協だより

[第87号]

令和4年10月発行

川越市民生委員児童委員協議会連合会広報部会 / 川越市小仙波町 2-50-2 川越市社会福祉協議会内 ☎049(225)5703・FAX049(226)7666



川越まつり

撮影者：石川 明人

全員研修会

「なぜ当事者が発信しているのか」

THREE FLAGS | 希望の狼煙

講師 ブローハン聡氏 西坂來人氏

8月22日の全員研修会にて、「社会的養護（親が育てられない子どもたちを社会で養育すること）」についての講演を聴かせていただきました。

講師のブローハン聡さんは養父の虐待から、西坂來人さんは父の暴力から避けるため、共に児童養護施設に保護されました。

お二人は、山本昌子さんという同志と共に社会的養護から自立する若者たちを支援する「クローバーハウス」のスタッフとして関わり、また「THREE FLAGS」として「社会的養護」をテーマにたくさんYou Tube動画を配信しています。

母親がフィリピン出身のブローハンさんは、幼い頃友達のお母さんがご飯を出してくれたり、そんな地域の方々の優しさに支えられたそうです。

民生委員・児童委員の皆様にはぜひ、①児童虐待を防ぐ取り組みに参加してほしい ②施設にいる時から子どもたちを訪ねて関係性を築いてほしい、とのことでした。ブローハンさんは、自分たちの「小さな一歩」が皆さんと共に進むことで「大きな一歩」になる、と語られました。

「なぜ当事者が発信しているのか」なぜでしょう？それは、彼らが自らの宿命を「子どもたちを救う」という使命に変えるためなのだと感じました。

私も、まずは私ができる一歩を踏み出してみようと、新たな決意をしました。先立ちまして、児童虐待の現状について川越市子ども家庭課主幹・中澤敏志氏よりお話しいただきました。

素晴らしい講演をありがとうございました。（広報部会 阪本）



左：ブローハン氏 右：西坂氏

各部会の活動紹介

生活福祉部会



増田 幹雄

一斉改選により、新たなメンバー20名と再任委員2名でスタートしました。期待と使命感等、様々な思いを胸に令和2年度事業計画の作成。その矢先コロナウイルス感染拡大のため生活福祉部会事業計画は書面決議となりました。

地域福祉活動の資質向上を目標に、健康に関すること・生活に関すること・育児に関すること・高齢者に関すること等、複雑で多様な福祉の課題を民生委員・児童委員としてどのような見守り活動・助言・援助が適切なのか支援者を招き学習会を行ってきました。

◎「精神障害者の理解と支援について」(川越市保健所保健予防課精神保健担当)

◎「成年後見制度やあんしんサポートネットに関する制度内容と民生委員との関わりについて」(川越市社会福祉協議会権利擁護センター)

「児童虐待について」(川越市こども未来部こども家庭課)等々。

部会では、当初学習会を予定していましたが、コロナ感染情勢の悪化により、その都度、日程、内容の変更や中止等、繰り返しをせざるを得ませんでした。

新型コロナウイルスの収束の見通しが立たないなか、地域の方々の抱えている問題を、拾い集め知識の共有に取り組み、今日の地域社会の少子高齢化の急速な進行、引きこもりによる社会的孤立、また社会情勢に於て、特殊詐欺が横行しており更に悪徳商法被害も多く見受けられます。

感染が減少に向かい、部会以外の民生委員・児童委員の方々にも参加していただく拡大学習会の開催や視察研修を通して社会資源を学び地域貢献の質の向上を図れる様願っています。

高齢福祉部会



菅沼 乙美

高齢福祉部会は、高齢者の健康維持・増進にむけた知識を研修し、わかりやすくフィードバックすることを目指しています。

◎いもっこ体操の普及

◎血圧測定や簡便なキットによる異常の発見(糖尿病、加齢黄斑変性他)

◎体組成計による実年齢と体力年齢の比較 等々

自己チェックのお手伝いをすることで悪化を防ぎ、健康を維持して頂くことが目的です。

新型コロナウイルスの影響で、定例会や視察研修が中止となり、地域活動を優先することにいたしました。

書面会議や役員会を通じ研修資料(アンケートを含む)を配布し、意見及び情報交換をはかりました。それにより、地域の実情を把握することができたとおもいます。

高齢者の皆様と面会でき

ない期間は、熱中症予防や手洗い消毒イラストのパンフレットを、ポスティングにより情報提供いたしました。特殊詐欺を避ける方法として、留守番電話の設置や、不審者からの連絡については、警察に通報するようお願いいたしました。

川越警察署にご協力を頂き、10月に勉強会を実施する予定です。

新型コロナウイルスによる生活の変化が、認知症の原因との報告が散見されました。できる範囲の健康観察や声掛けをし、近隣の方に協力して頂けるよう申し合わせをいたしました。

新型コロナウイルスの現状では難しいと思いますが、高齢者施設の訪問や研修ができればと思います。

行政機関や川越市地域包括支援センターと緊密に連携を取り、高齢者の希望に添えるようにできればと願っております。

部会員の皆様と、新型コロナウイルスに感染することなく、無事に3年間活動できたことを、感謝申し上げます。

児童福祉部会



内野 明美

児童福祉部会は、児童(18歳未満の者)をとりまく様々な問題を、会員22名で協議し学び合っています。

令和2年から猛威を振るった新型コロナウイルスは、私たちの生活や社会に大きな影響を与えています。

そして部会の自粛や中止が余儀なくされてしまいました。新しい生活様式「ソーシャルディスタンス」「ウィズコロナ」を頭に置きながら活動を思索してきました。

こども家庭課や児童相談所の学習会では、児童の支援制度、虐待の現状そして里親制度の情報をわかりやすく学ぶ事ができました。

川越警察署の方からは、青少年の非行やスマホ・SNS等の間違った使い方が危険をもたらすという現実の怖さが伝わってきました。

教育センターの学習会では、不登校、いじめ、学習困難等、学校と家庭との関

わり、そして地域も含む多面的な支援が重要になり、今、課題となっているヤングケアラーの実態も見えてきました。また、川越こどもパントリーの活動を知りコロナ禍の中、児童の貧困も問題視され親の経済的な事情や社会の変化が児童の未来にどのように関連していくのか・・・「こどもたちの生きる力を育む」という言葉がとても印象的でした。学習会ごとに、会員同士小グループで意見交換をし深め合う中で各地区の様子も知る事ができました。

広い会場で主任児童委員部会と一緒に「こどもの心と体を守る性教育」の講話を受け、大切な自分の命を守るという基本概念を共有しました。

以上の学習内容から児童をめぐる課題や事実をしつかりと受け止め、相互に支え合いやさしい気持ちで皆の笑顔が増えるよう、会員一人ひとりが健康で明るく過ごし、部会での学びの種をそれぞれの地域に蒔いて育て、笑顔いっぱいの花を咲かせていけたらと思っています。

主任児童委員部会



大木 直子

主任児童委員は、子どもや子育てに関する支援を専門に担当する児童委員として地域住民の立場に立ち、民生委員・児童委員と連携し、各関係機関とのパイプ役となり子育てに関する支援や児童健全育成活動を行なっています。

コロナ感染拡大によるイベントの中止等、思うように活動できない日々が続きましたが、各地区からの代表制や2部制、リモート併用など工夫をしながら、月1回の定例会を再開し、一人ひとりに寄り添い、より良い支援につなげるために様々なテーマの学習会や視察研修、そして各関係機関や委員間の情報共有に取り組んでいます。コミュニケーションスクールや放課後子ども教室など、学校での新しい取り組みについても学習しました。10月の子育てサロンまつりも中止が続きます。

したが、楽しい遊びの場を提供し、広く主任児童委員を知っていただけるよう、安全に配慮しながら開催していきます。

また埼玉県主任児童委員部会に参加し、他市とも情報や課題を共有し、課題解決や学習に共に取り組んでいます。

近年、少子化や核家族化に伴う育児不安や子育て中の孤立に加え、児童虐待、いじめや不登校、子どもの貧困やヤングケアラーなど支援を必要とする子どもや家庭をめぐる問題が複雑化、深刻化しています。さらにコロナでますます各家庭の中が見えにくく、支援が届きにくくなっています。まずは主任児童委員の存在を広く知っていただき、地域での小さなSOSに気づけるよう、子どもや保護者との関わり、そして信頼関係の構築を大切に、学校や各関係機関との連携をさらに高めていけるよう、46名委員一同で工夫し、進めていきたいと考えております。



広報部会



比佐 實

広報部会では「社会福祉等に関する情報及び課題を提供し、市民連活動の活性化に努める」を活動目標に掲げています。会報「かわごえ民児協だより」の発行を中心に活動してきました。

市民児連・部会、並びに各地区民児協の紹介等の情報提供を心がけ、委員活動の意思疎通の円滑化に努めました。コロナ禍において、役員会・定例会等の会議は中止になるなど制約を余儀なくされましたが、所期の目標は達することができました。

「民児協だより」は、当初作業が滞りましたが、第80・81号合併号に始まり、この第87号に至るまで無事に発行することができました。部会員の広報部会に対する思いと責任感のおかげです。

発行は年3回（1月・6月・10月）。この3年間で8回発行（第88号を含む）。1回の発行には3ヵ

月を要します。

部会員22名が3グループ（7〜8名からなる）を編成し、編集方針・内容、レイアウト、原稿依頼・回収そして編集・発行に至る作業に取り組みました。

最後は会報の発送です。部会員全員で発送作業を行います。部数は、1200部にも及びますが、絶妙なチームワークで時間内に終わらせます。これもまた、部会員の広報部会に対する思いと責任感がなせる業です。

課題もあります。会報の内容の見直し、原稿のデジタル化等、問題提起がありました。今後の課題です。その基本には、広報部会に限らず、市民児連・部会活動について、全体としてIT化を検討する段階にあることは事実です。



編集会議風景

生きがい訪問

● 第十地区 ●

片桐 嘉勝さん

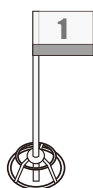
忙しい毎日

長野県で生まれ育ち川越に住んで51年目になります。昭和50年代は自治会の壮年ソフトボールチームの一員として頑張りました。

平成17年に自治会の男女20人でグラウンドゴルフを始めました。週に2、3回練習をし年配の女性も楽しく参加しておりました。大会も市協会、市老連、社協、小学校各区等沢山有ります。グラウンドゴルフは個人競技なのでスコアが良く入賞する事もあり、又、1点差で涙する事もあります。グラウンドゴルフはホールインワンが入ると3点マイナスするのでそれも運です。

始めて5年目位で市の指導員になりその後県の役員も仰せつかりました。大会の時には、試合前の会議当日は朝早く行き、準備し終了後は後片付け等忙しい思いをしております。

今年になつても市の大会や行田市、加須市の大会で行ってきました。7月26日・27日は千葉県白子町へ役員(40人)で研修会兼コンペに行ってきました。10月には関東(東京)大会、福島県柵倉町へ親善大会に一泊で行く予定です。その外、日高市を始め大会がいっつもあります。健康で今の状態を保ち皆さんと楽しくグラウンドゴルフが出来ればがんばりたいと思います。



● 山田地区 ●
五十嵐 孝治さん



前向きに生きる

民生委員として2期6年ご活躍された五十嵐孝治さん(85歳)宅を訪問し話を聞きました。

退任は平成16年ですが、退任後いかがですか？

民生委員の活動を活かし、地域では盆踊りに協力をし

てきました。特に檜上で太鼓をたたいて踊りに華を添えてきています。

また、若い頃から参加していたソフトボールクラブの皆さんがはじめたグラウンドゴルフクラブに所属し、退任した年には埼玉県国体にグラウンドゴルフ団体戦の選手で参加し、第1位になりました。今でも毎月の定例会等に参加し、元気でやっています。

昨年奥様を亡くされましたが今のご心境は？

子どもたちは結婚し別世帯となり、妻と二人暮らしでしたので、正直言つて辛く、寂しい思いです。

そんな思いの時、南山田いもっこ体操会を知りました。早速参加したところ、参加されている皆さんの活力ある姿に触れ、一人になつた自分の思いをいつまでも引きずってはいけません。だと思つたようになり、元気にいもっこ体操会に参加しています。

その体操会で紹介された

「認知症介護サポーター講座」を知り、早速講座に参加しています。

現役時代は販売の仕事で一日中立ちどろしでしたので体力には自信があつたのですが、講座では自分の知らなかつた事を学ぶことが出来ました。また、同時に心と身体の健康の大切さを考え、前向きになりました。

心と身体の健康とは？
いつまでもよくよして
いないで積極的に地域社会活動に参加していくことで、心と身体の健康を保てるものと思つています。

朝のラジオ体操会にも参加し、みなさんとの交流も深めています。これ等が私の今の生きがいです。

ありがとうございます。



地区民児協だより

高階地区

尾木とよ美

工夫してつながりを！

高階地区は、川越市の南南東に位置し、ふじみ野市に隣接しています。人口5万人を超え、民生委員・児童委員68名、主任児童委員3名、総勢71名の川越市で最も大きな地区です。

コロナ禍で定例会は密を避ける為、現在は午前と午後の2回に分けて行われています。研修会や部会は中止になりましたが、DVD研修や活動の事例発表などで学んでいます。

また活動が縮小、難しくなっている状況ですが、感染対策をし、工夫しながら活動を続けている地域も多々あります。

私の担当地域も感染状況を見ながらこの2年間、介護予防教室の中止や再開を繰り返してきましたが、今年5月からは継続して行っています。いもっこ体操に簡単なゲーム、おしゃべりなど、参

加されている方々の笑顔を見ると、顔を合わせる大切さを感じ、ずっと続けられたらと思います。

高階地区では、社会福祉協議会と自治会、民生委員・児童委員の協力で給食サービス事業を行っています。70才以上の一人暮らしの希望者に、月1回お弁当としおくりをお届けし、声かけをしています。また集まって食事を開いている地域もあり、歓談しながらの集いの場となり利用者の楽しみとなっています。

ウィズコロナに政策転換され、地域の事業が少しずつ再開されましたが、まだまだ収束は見え、高齢者には活動しにくい日々が続いています。顔の見える機会が減り、孤立や不安を感じるような見守りや訪問活動が必要ではないかと考え、取り組んで行こうと思っています。コロナ前の当たり前の日常が一日も早く戻る事を心から願っています。



コロナ前の介護予防教室。AED体験。みんな目が真剣！



コロナ前、タオルを持ってストレッチ！

大東地区

山田幸次

信頼される民生委員

地区民児協の役割は何かと、問われて自問自答する。

大東民児協の会則には、「委員の活動を支援するための連絡・研究及び親睦を図る」と、明記されている。委員の活動は時を選ばず、多義にわたっている。その活動は、状況に応じた確かな対応が求められている。

委員は、一人で悩み不安を抱えながら活動している。誰かに相談したい時と場が欲しくなる。その受け皿が、本民児協でありたいと願う。現在の定例会は、伝達や事業の協議が中心である。人が会すれば、和気あいあいと会話がはずむはずなのに、活動の紹介や委員の悩みを話す時間がない現状である。

コロナ禍を機会に、本民児協の会務を、民生委員・児童委員信条を抛り所にして精選した。

- (1) 社会福祉の増進
- (2) 地域の実情把握
- (3) 相談・援助活動
- (4) 関係機関との連携協力

(5) 人格・識見の向上
5項目は、委員の日常生活の原点と再確認した。次に、配食サービス事業の休止や一人暮らし高齢者の集い等の見直しを図った。民児協には、人格や識見の向上をめざす研修の場を準備する責務がある。講演会やDVD視聴も有効だが、委員が抱える身近な悩みや苦勞を共感する場も欲しい。定例会の充実、研究や親睦の場づくりを工夫したい。

委員の一人ひとり、社会福祉の一翼を担っている責任と自負を持ち、活動を通して、やりがいを実感して欲しい。

委員の支援を必要とされている方に寄り添い、地域住民のために地道な活動を人知れずコツコツ続けることが大事であると思う。

「徳不孤、必有隣」(徳は孤ならず。必ず隣あり) 隣人愛を持って行動する委員の姿こそ、地域の皆さんから信頼される民生委員に近づくと確信する。



親睦を深めた3年ぶりの県外視察



出発の朝、全員がコロナ用抗原検査キットで陰性を確認

地域の活動紹介

第九地区

久保田修平

私達の活動については、

72号、79号で紹介させて

いただいています。活動の

中心は、原則月2回の「70

歳以上一人暮らしの方の安

否確認訪問」です。該当者

は、約360名ですが、実際に

毎月訪問をしている方は、

「まだ元気なので大丈夫で

す」とおっしゃってくれた

方を除き、約230名です。

しかし、コロナ感染によ

り活動が大きく制限されて

しまいました。この安否

確認訪問は、確実に実施さ

れていました。これは、各

委員さんの工夫と定例会で

の情報交換・指示伝達が、

的確に普段からできていた

からと思います。ある委員

さんは、訪問時に連絡事項

や情報を記載した新聞を作

成し、届けています(図1

参照)。会わなくてもしつ

かり必要事項が伝達できて

います。

図1



毎月の定例会は、共通理

解を図る上で大切な取り組

みです。「参加してよかつ

た」と考える工夫をしてい

ます。ちょっとした心遣い

ですが、定例会のお菓子を

お手製のパッケージに入れ

て下さる方もいます(図2

参照)。

図2



また、会長さんからの理事

会報告は、庶務の方が、定例

会の資料のなかにすべて記載

している。全員に正確に

伝達されています。さらに、

緊急な連絡は、ラインと

ショートメールを活用し、全

員に確実に伝わっています。

コロナ禍でも大切な取り

組みが、進められたことは、

普段の確実な取り組みの賜

物と自負しています。今後

も、地域の状況をしっかりと

把握し、民生委員・児童委

員活動が、有意義に進めら

れるように取り組んで行き

たいと思います。

主な市民児連活動予定

- 10月1日(土) 赤い羽共同募金への協力
- 10月3日(日) 地区民児協
- 10月17日 正副会長研修会
- 11月3日 川越市社会福祉大会
- 11月7日 在宅障害児招待事業
- 11月17日 理事会
- 12月6日 川越市民生委員・児童委員 委嘱状及び感謝状 伝達式
- 12月19日 理事会

時の鐘

今夏は、稀に見る猛暑と豪雨に見舞われました。罹災された方々のご心労は如何ばかりでしょうか。

これらの天候は異常気象と呼ばれ、一時的な現象と捉えられているようです。しかし、本当はこれから始まる新たな変化の、最初の一步なのかも知れません。皆さんに教えて頂きながら、民児協だよりの編集に関わる事3年。

そろそろ少し、変化が欲しい。新しい民児協だよりを見てみたいと、そう思うようになりました。

明るく、親しみが持て、読みたいと思わせる広報誌に育って欲しい。

皆さんは、いかがお思いでしょうか？

第87号の編集担当は、早川邦江・出水広文・岡部千代子・阪本恵子・峯岸佳世子・西島隆・鎌田幸子の7名です。

川越市社会福祉協議会のホームページに「民児協だより」が掲載されています

川越市社会福祉協議会ホームページ

左側のメニューから「福祉団体」をクリック

市民児連の「民児協だより」の各号をクリック

川越市社協 検索